

民生常任委員会 勉強会報告書

1 勉強会参加者

民生常任委員会	委員長	田中正剛
	副委員長	宮本かずなり
	委員	岩下 彰
	〃	まつお 正 秀
	〃	松山 かつのり
	〃	八木 米太郎
	〃	吉井 竜 二
	〃	脇田 のりかず

2 勉強会日時

令和3年2月10日(水) 午後1時28分～午後3時25分頃

3 勉強会受入先及び勉強事項

兵庫県警察西宮警察署及び甲子園警察署
・特殊詐欺対策について

4 受入先対応者

西宮警察署生活安全第一課課長	恵良知也様
甲子園警察署生活安全課課長	井上良太様

5 勉強会実施の目的

民生常任委員会では、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、特殊詐欺の被害の増加が懸念されること等から、令和2年度の施策研究テーマの1つに、「防犯対策（特殊詐欺対策）について」を選定しました。そして、市の取組みや効果について調査するなかで、防犯対策については、警察との連携が不可欠であることから、西宮市内の特殊詐欺の発生状況をご教示いただき、意見交換をすることを目的に勉強会を申し入れたところ、快く受け入れて頂きました。

6 勉強会の結果・意見等

●西宮の犯罪発生状況（令和2年中）

①西宮警察署管内

	認知件数	前年対比	被害額（円）
総数	128	+49	1億9490万5000円
オレオレ	2	-3	1300万円
預貯金	31		2848万9000円
架空料金	14	-15	7024万5000円
融資保証金	3	+2	527万3000円
還付金	72	+71	7501万3000円
キャッシュカード 詐欺盗	6	-6	288万5000円

②甲子園警察署管内

	認知件数	前年対比	被害額（円）
総数	27	-2	3224万6000円
オレオレ	0	-5	0
預貯金	7		1666万4000円
架空料金	5	-7	386万5000円
融資保証金	0	0	0
還付金	12	+12	941万9000円
キャッシュカード 詐欺盗	3	-2	229万8000円

（令和元年までオレオレ詐欺は「預貯金詐欺」と合わせて分類されていたもの）

令和2年に増加している預貯金詐欺とは、親族、警察官、銀行協会職員等を装い、親族が起こした事件・事故に対する示談金等を名目に金銭等をだまし取るもの。そして、還付金詐欺とは、税金還付等に必要手続きを装って被害者にATMを操作させ、口座間送金により財産上の不法の利益を得る電子計算機使用詐欺又は詐欺事件。

●警察の取組み

○水際阻止状況

水際阻止とは、金融機関の窓口での声掛け等によって、特殊詐欺の被害が未然に防止されること。

①西宮警察署管内

総数 85 件（前年対比 51 件増加）

・警察官 11 件、関係機関 74 件

(関係機関とは、金融機関、コンビニ店員、利用客、親族等)

②甲子園警察署管内

総数 42 件

・警察官 7 件、関係機関 35 件

社会全体で特殊詐欺から市民を守る重要性が現れた数値と言えます。

●事前質問及び回答

勉強会の事前に民生常任委員会各委員より警察署に対する質問を集め、まとめて事前に提出していた質問、及び回答は以下のとおりです。

(質問 1) 県内他市の特徴的な取組み事例 (警察署との連携や共同事業等) がございましたらご教示ください。

(回 答) 地元警察署と連携して防災行政無線の活用による犯罪情報の啓発をしている市がある。明石署では、放送内容の協議を月に 1 回実施し、情報共有と放送する内容の確認を行っている。

その他、西宮市でも平成 29 年度から実施してもらっているが、川西市では自動通話録音機を貸し出した後にアポ電が減少した実績がある。

(質問 2) 西宮市に対する情報提供の状況をご教示ください。

(回 答) 青パトでの広報、市政ニュースでの毎月掲載や宮っ子に掲載する際に、防犯に関する情報を提供している。しかし、特殊詐欺対策については、市の窓口が地域防犯課と消費生活センターではっきりしていないことが課題と感じている。形式的な会議ではなく、随時情報を提供できる機会、情報交換ができる場があればいいと考えている。

(質問 3) 西宮市に対する依頼されている事項 (特殊詐欺対策に関連して) がございましたらお聞かせください。

(回 答)

- 防犯啓発における防災行政無線の活用
- 市の特殊詐欺対策を担当する部署の明確化
- 防犯カメラの増設 (キャッシュカード手交型の場合は特に有効)
- 情報提供の機会の創出
- 市による金融機関やコンビニエンスストア等への A T Mでの警戒の呼びかけ

(質問 4) コロナ禍により市内で特殊詐欺が発生しているエリアや被害者に特徴 (重複等)、傾向 (手口・被害の年齢など) についてご教示ください。

(回 答) 令和 2 年の西宮警察署管内での被害者は若干女性が多く、甲子園警察署管内では 3 分の 2 が女性となっている。架空料金請求詐欺の被害は 40 歳代、50 歳

代の方が多い。現在の犯行の手口としては、預貯金詐欺と還付金詐欺が主流となっている。また、「アポ電」が、西宮警察署管内 464 件（対前年比 2 件減）、甲子園警察署管内で 193 件（対前年比 66 件）となっており、甲子園警察署管内で大幅に増加した。

（質問 5）特殊詐欺事件の発生状況と現在警察で取組まれている具体的な対策（防犯の性格上、公表できる範囲で結構です）がございましたら、ご教示ください。

（回 答）被害の発生状況については、上の表を参照。対策については、水際対策以外にも、捜査用車両を用いての広報、不審な電話があった地域を特定しての啓発チラシの新聞折り込みの実施、戸別訪問による録音機の提供等を実施している。昨年は、金融機関会議を開催した。また、生活安全課はコンビニエンスストアを回り防犯診断を実施している。

（質問 6）自動車で拡声器を使った啓発を時々されていますが、効果の検証とかはできるのでしょうか。

（回 答）「放送を聞いた」とのご意見を伺っており、一定の啓発にはつながっていると考えている。

（質問 7）警察が行政や自治会に期待する役割には、どういったものがあるでしょうか。

（回 答）現在、老人クラブ等への P R チラシを社会福祉協議会を通じて各地区に配布してもらっている。市から高齢者に向けに郵送される封筒に注意喚起の啓発文を印刷してもらった。防犯ネットでは、アポ電に関する情報をメールで流している。防犯ネットの登録促進をお願いしているが、高齢者の方にはハードルが高くなっているので、ご家族にもご協力を頂くなど、社会全体で特殊詐欺を未然に防ぐ必要性を感じている。

（質問 8）被害を事前に防ぐ最善の予防策について、ご教示ください。

（回 答）還付金詐欺については、A T M での警戒を強化すると効果が高い。今後は、手櫛や防止策を浸透させる取組みが必要であり、特に意識が低い方へのアプローチが課題である。

（質問 9）被害者への支援やケアはどのように行っていますでしょうか。

（回 答）振り込め詐欺救済法の説明、預金等に係る債権の消滅手続及び被害回復分配金について情報提供をしている。

7 各委員の意見・感想

これまで、市議会として警察と意見交換をする場は設けられておらず、今回の勉強会は非常に貴重な機会となりました。その意見交換の中で、警察から市に対して防犯について依頼はしている事項があるものの、警察は兵庫県の組織であり、市に対して強く要請することができず、遠慮している様子が垣間見え、もどかしさを感じました。これは、法的根拠が希薄であることも一因と考えられます。また、特殊詐欺対策については、市の担当部署がはっきりしていないと警察が感じていることが確認でき、市と警察の連絡を一層密にして、市も警察との連携を強化して特殊詐欺の撲滅に向けて取組む必要性を確認しました。市に対する提言、詳細の意見については、今後の施策研究テーマの提言に向けた委員間協議を経て掲載することと致します。

最後になりますが、このたび調査にご協力いただいた西宮警察署及び甲子園警察署の担当課長に対しまして、この場を借りて御礼申し上げ、報告と致します。